

2011年3月期本決算 説明会資料

2011年5月23日



スパークス・グループ株式会社
www.sparx.co.jp

2011年3月期本決算の業績 と 今後の施策

ビジネスは着実に回復、コスト構造も更に改善したが、
「のれん」の償却・減損をカバーするに至らず、
営業損失：865百万円、純損失：3,698百万円を計上。
(3期連続で無配。)



SPARX復活に向けての確かな歩みを確認している。

- ▶ AUMの増加
 - ▶ 基礎収益力の回復
 - ▶ 成功報酬の拡大
- +

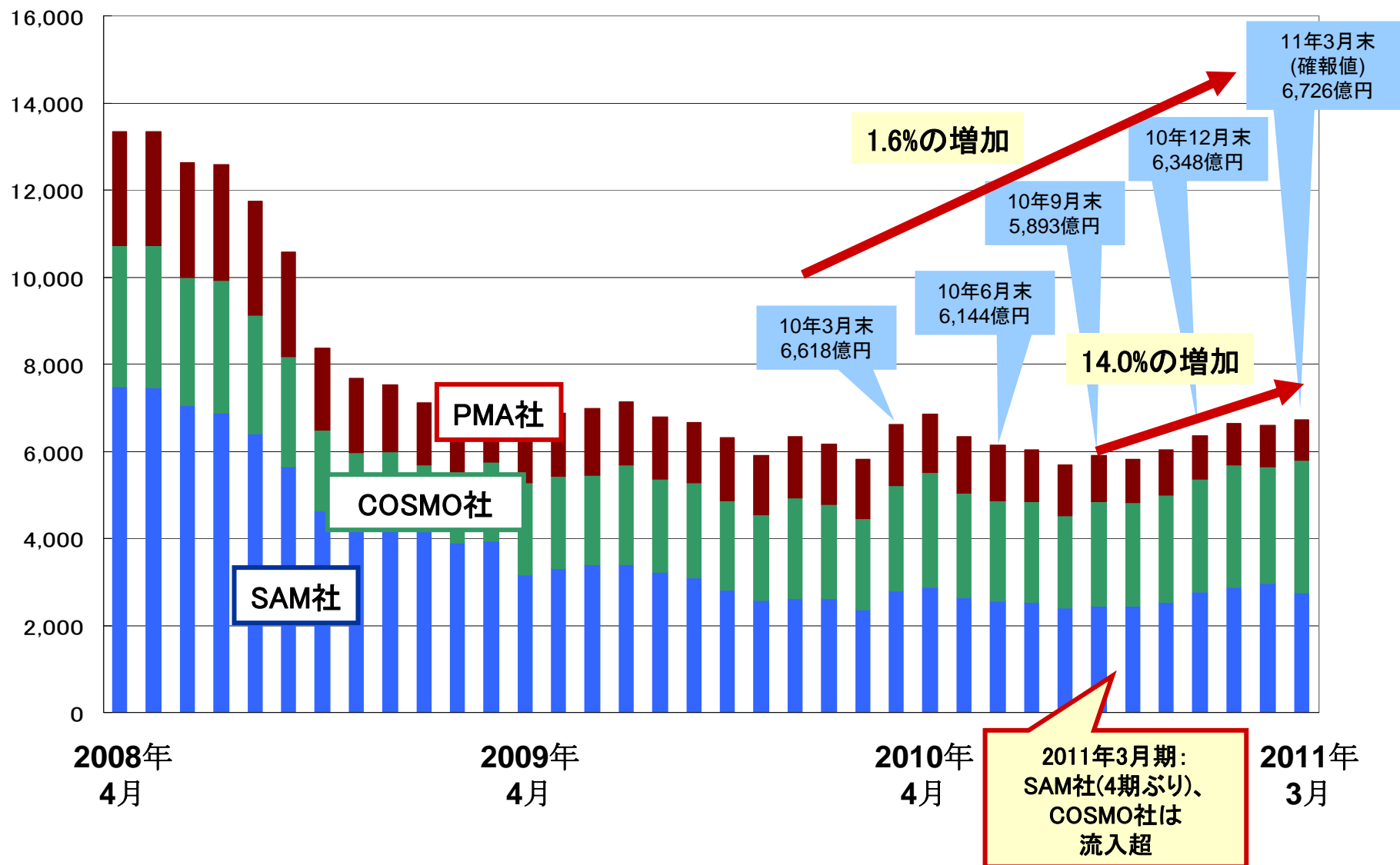
One Asia-One SPARX体制
によるビジネス拡大

クリーンエネルギー投資等
の新戦略の拡大

資金純流入もあり、AUMは増加

(単位: 億円)

運用資産残高(AUM)の推移



基礎収益力は回復へ

基礎収益力： 残高報酬(手数料控除後) VS 経常的(固定的)経費

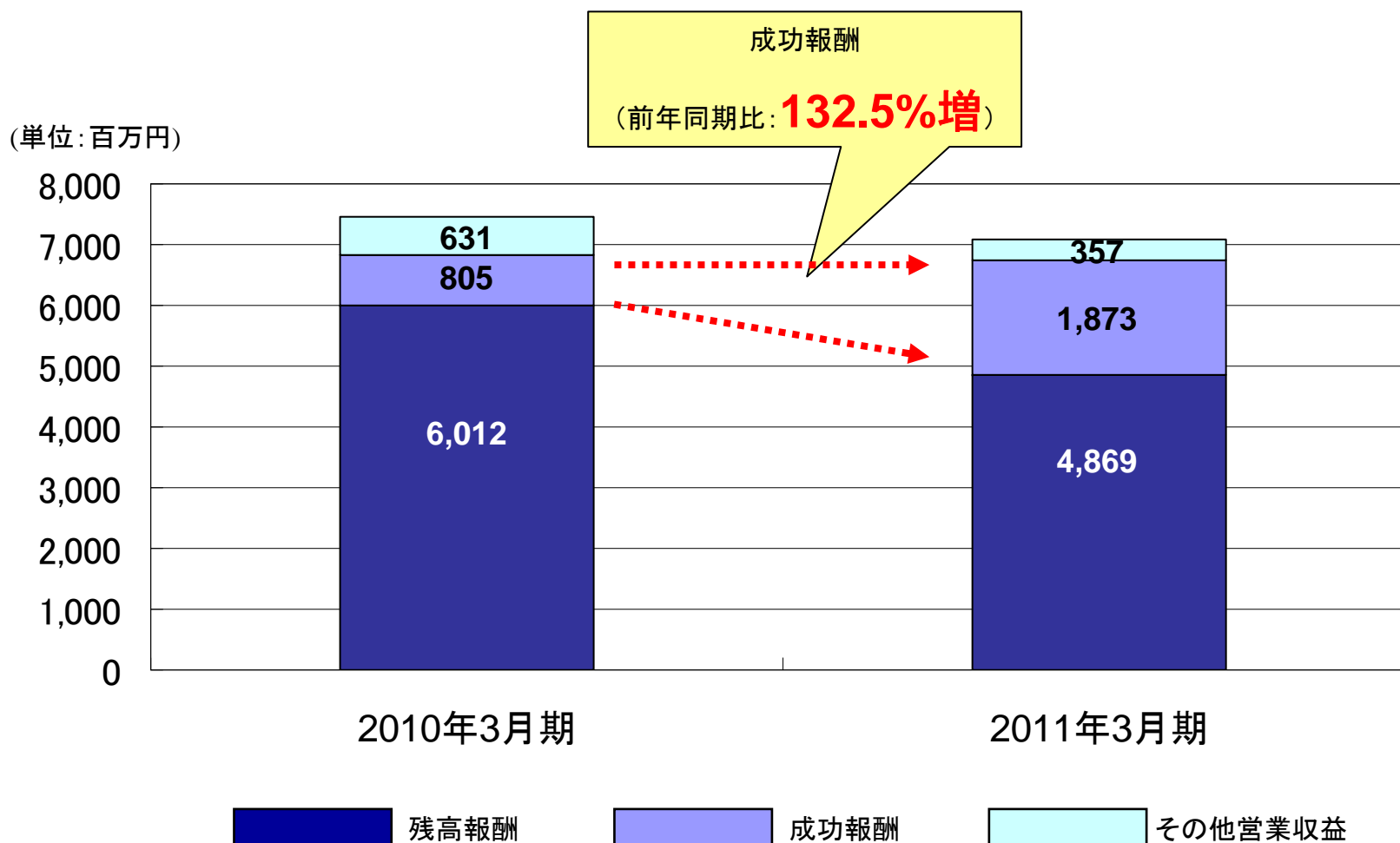
	2010年3月期	2011年3月期	
AUM平残 (億円)	6,527	6,260	
残高報酬料率 (手数料控除後) (%)	0.79	0.67	残高報酬料率は低下するも
残高報酬 (手数料控除後) (百万円)	5,135	4,199	更なる経費削減
経常的経費 (百万円)	5,543	4,187	
基礎収益 (百万円)	▲408	11	足もとでは既に回復

(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入、会計上給与に含まれているものを一部含む)、③海外子会社の役員に対する退職金等の一時的支払、④のれん償却費の合計を、営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。

運用成績の回復で、成功報酬大幅増

残高報酬・成功報酬・その他営業収益の推移



(注) 上記表においては、営業投資有価証券売却・評価損益を除外して表示している。

「のれん」償却前の営業損益は黒字幅拡大

2011年3月期 連結経営成績の概要

	2010年3月期		2011年3月期	
		通期 43%増	通期	前年同期比
AUM平均残高 (億円)	6,527	「のれん」償却前、 5.6億円の黒字	6,260	-4.0%
営業収益 (百万円)	7,893		7,101	-10.0%
営業費用・一般管理費 (百万円)	8,852		7,967	-10.0%
営業利益 (百万円)	-959		-865	
経常利益 (百万円)	-446		-998	
当期純利益 (百万円)	398		-3,698	
従業員数(期末) (人)	203		168	-17.2%
TOPIX (期末)	978.81		869.38	-11.2%

「のれん」償却前の減損損失(15.2億円)を計上

(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。

(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびPMA社の運用資産残高を含む。なお、2011年3月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

経常的経費は25%減少し、コスト構造は更に改善

経費内訳

(単位は全て百万円)	分類	2010年3月期		2011年3月期	
		通期	前年同期比	通期	前年同期比
		内、賞与等 825百万円		内、賞与等 1,178百万円	
支払手数料	営業費用	960	-20.1%	767	-20.1%
人件費	一般管理費	3,379	1.0%	3,413	1.0%
委託計算費	営業費用	127	-43.8%	71	-43.8%
旅費交通費	一般管理費	219	-11.6%	193	-11.6%
不動産賃借料	一般管理費	732	-35.1%	474	-35.1%
事務委託費	一般管理費	646	-43.3%	366	-43.3%
減価償却費	一般管理費	202	-26.0%	149	-26.0%
その他	一般管理費	1,062	-19.2%	858	-19.2%
のれん償却額	一般管理費	1,522	9.8%	1,671	9.8%
営業費用・一般管理費 合計		8,852		7,967	-10.0%

(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

(注3) 「負ののれん償却額」として、110百万円(2010年3月期)、99百万円(2011年3月期)が営業外収益に計上されている。

(注4) 2011年3月期の「その他」は、「その他(営業費用)」と「その他(一般管理費)」を合計して表示している。

今後3年間は、年間15億円程度ののれん償却負担が発生

のれん残高及び償却見込み

▶ **PMA社：26.5億円（2011年3月末残高）、償却期間10年。**

⇒ 今後2016年3月期まで、毎年約5.1億円の償却負担の発生を見込む。

▶ **COSMO社：36.8億円（2011年3月末残高）、償却期間5年。**

⇒ 今後2016年3月期までの償却スケジュールは、以下の通り。

- ・2012年3月期/2013年3月期：約10.3億円
- ・2014年3月期：約9.1億円
- ・2015年3月期：約5.2億円
- ・2016年3月期：約1.8億円

(注1) COSMO社ののれん償却については、正ののれんと負ののれんの合計額です(つまり、営業費用と営業外収益とネット額)

(注2) 新会計基準の導入により、COSMO株式追加取得に係るのれんを一部外貨で認識しているため、為替変動の影響を受けます。

(注3) IFRS導入により、スケジュールどおりののれん償却を行わない可能性があります。

純資産は減少するも、BSの健全性は確保

2011年3月末時点 貸借対照表概要

(単位:百万円)

	2010年3月末	2011年3月末	前期末比
流動資産	19,090	13,281	-30.4%
うち、現預金	15,270	8,659	-43.3%
うち、有価証券	726	1,959	169.7%
固定資産	17,684	14,629	-17.3%
うち、のれん	7,623	6,338	-16.9%
うち、投資有価証券	9,254	7,676	-17.1%
(資産の部 合計)	36,774	27,911	-24.1%
一年内返済予定長期借入金	3,000	5,000	66.7%
社債	5,000	4,900	-2.0%
長期借入金	5,000	-	-100.0%
(負債の部 合計)	15,689	11,890	-24.2%
資本金・資本剰余金	26,696	26,731	0.1%
利益剰余金	-3,868	-7,566	-
自己株式	-4,438	-4,438	-
少数株主持分	2,715	1,761	-35.2%
(純資産の部 合計)	21,084	16,021	-24.0%

現預金・有価証券・投資有価証券の合計(約183億円)で、外部負債(99億円)の返済原資は十分確保

-2011年11月返済予定
-2012年9月償還予定

(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

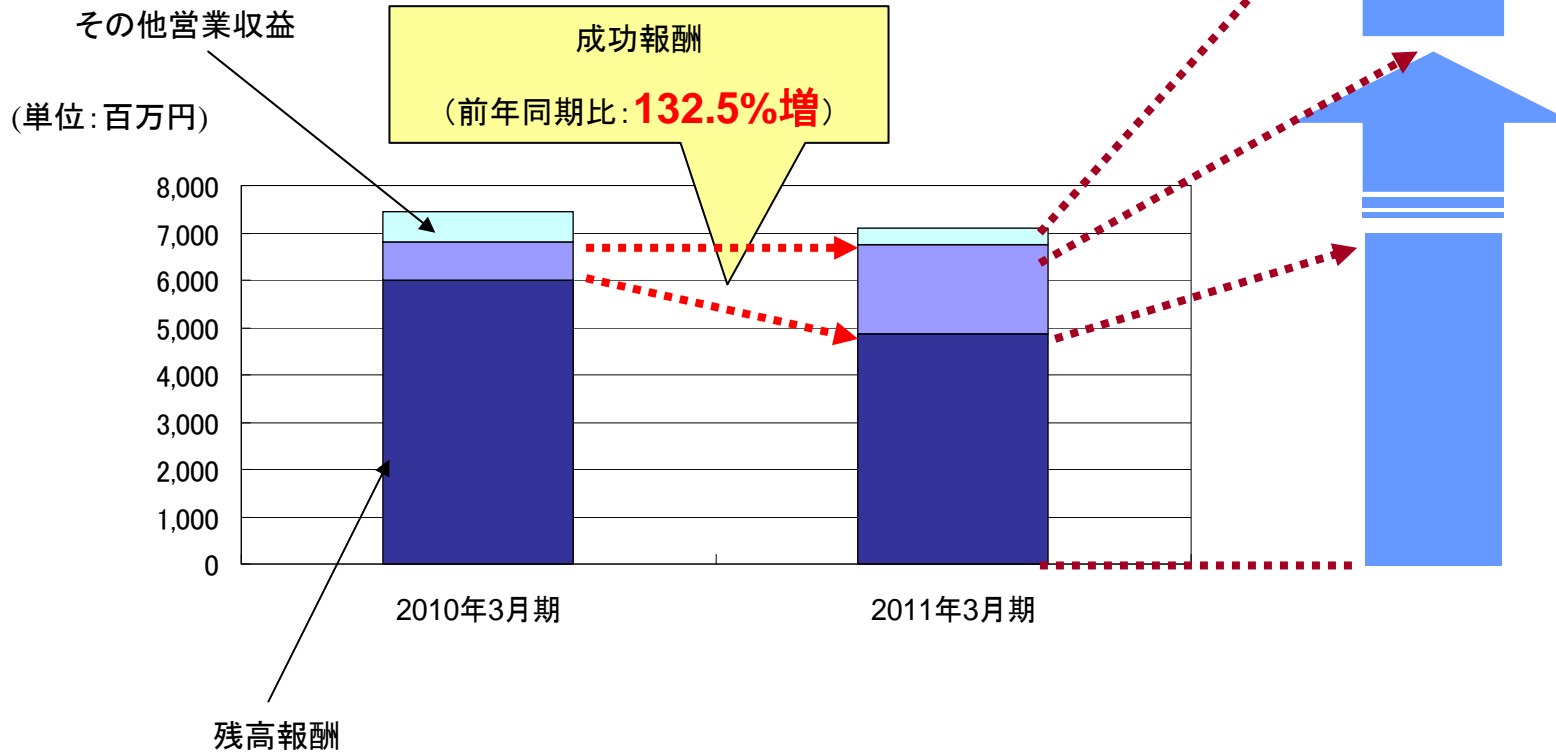
(注2) 投資有価証券は、当社の運用ファンドへのシードマネーを含む。

既存ビジネス回復加速とOne-Asia戦略を推進し、 連結利益を黒字化・復配。

- グループ一体化の推進と新戦略立ち上げによる飛躍。
 - Localの強みを維持拡大すると同時に、マーケティング・オペレーションの一体化促進。
 - “One-Asia” 戦略を軸とした新たな投資戦略 (One-Asia Long-Short投資戦略、One-Asiaロング・オンリー投資戦略) の立ち上げ。
 - 環境・グリーンテック投資戦略の拡大・深化。

グループ一体での「既存ビジネスの回復加速」&「新分野の拡大」

残高報酬・成功報酬・その他営業収益の推移



「新分野の拡大」

- グループ各社の持つ強みを結集し、グループ全体でEdgeの効いた商品提供 (One-Asia株式投資戦略の立ち上げ等)

「既存ビジネスの回復加速」

- グループ一体でのマーケティング強化
⇒ AUM回復加速
- 運用成績は好調持続
⇒ 成功報酬は拡大基調
⇒ 既存商品への評価上昇 (AUM回復へ)

(注) 上記表においては、営業投資有価証券売却・評価損益を除外して表示している。

【トピック2: SAM社】

「Morningstar Award “Fund of the Year 2010”」優秀ファンド賞受賞



スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)が「Morningstar Award “Fund of the Year 2010”」において国内株式型部門の『優秀ファンド賞』を受賞しました。「Morningstar Award “Fund of the Year 2009”」における国内株式型部門の『最優秀ファンド賞』の受賞に続き、2年連続の受賞となりました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2010”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2010年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型 部門は、2010年12月末において運用期間1年以上の当該部門に属するファンド657本の中から選考されました。



LIPPER FUND AWARDS 2011 JAPAN

スパークス・ジャパン・スモール・キャップ・ファンド(愛称:ライジング・サン)が
「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2011 最優秀ファンド
(評価期間:5年、分類名:株式型 日本株 中小型株)」を受賞しました。

「リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2011」は、世界21都市で開催している「Lipper Fund Awards」プログラムの一環として行われ、日本において販売登録されている国内および外国籍ファンドを対象に、優れたファンドとその運用会社を選定し、表彰するものです。選定/評価に際しては、リップパー独自の投資信託評価システム「リップパー リーダー レーティング システム (リップパー リーダーズ、Lipper Leaders)」の中の「コンシスタントリターン(収益一貫性)」を用いています。

リップパー・ファンド・アワードに関する情報は、投資信託の売買を推奨するものではありません。リップパー・ファンド・アワードは、過去のファンドのパフォーマンスを分析したものであり、過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではないことにご留意ください。評価結果は、リップパーが信頼できると判断した出所からのデータおよび情報に基づいていますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。© 2011 Thomson Reuters. All rights reserved.

【トピック4: Cosmo社/PMA社】

Cosmo社

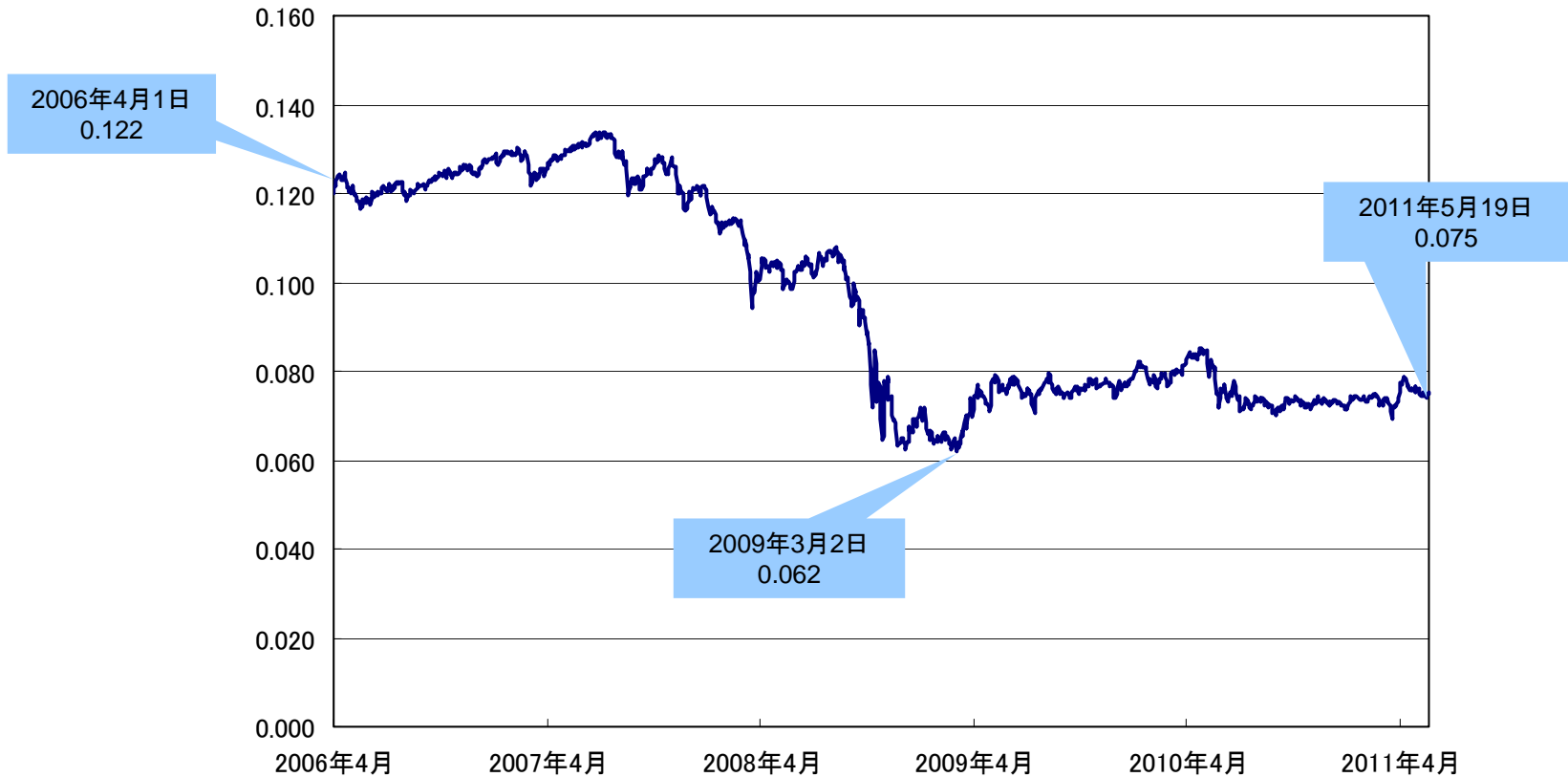
- AUM残高はピーク更新
 - 2011年3月末のAUM残高は4.0兆KRWで2010年3月末比47.0%増加
(⇒2011年4月末で4.3兆KRW)。
- 優れた運用成績が続く
 - COSMO社単体における2011年3月期の成功報酬は、前期比で約2.8倍。
- 現状では十分でない海外顧客からの資金流入に向け、グループ一体でのマーケティング活動を強化。韓国国内でも大手銀行等との販売提携を加速。
- 投信ライセンス取得を見込み、体制を強化・整備。

PMA社

- “One-Asia”戦略を軸とした新たな投資戦略の組成・販売において、運用・オペレーション・マーケティングのプラットフォーム機能を果たす
 - 2012年3月期の初め: SAM社・COSMO社から運用のプロフェッショナルが結集
 - グループCOOが香港に常駐
- PMAブランドからSPARXブランドに変更してビジネスを展開

【参考】日本円・韓国ウォンの為替レートの変動

(日本円/韓国ウォン 為替レート)



出所: WM Reuters Spot Rate(MID)

新分野の拡大・・・新たな成長ステージへ①

SAM社(日本)、COSMO社(韓国)、PMA社(香港)が持つ強みを最大限に維持する一方、各社の潜在力と経営資源を統合し、“Center for Asia Investment Intelligence”の理念を事業として具体化する。

▶ 投資仮説

- 日本における経験をベースに、世界経済の拡大を支えるアジア全域(日本を含む)をひとつの投資対象地域として捉えた投資仮説を提示。

▶ 商品組成

- One Asia Long-Short投資戦略、One-Asiaロング・オンリー投資戦略
- 環境・グリーンテック投資戦略
- バリュー・クリエーションタイプの新しい投資戦略

▶ 運用・調査体制

- スパークス・グループ全体から選抜した最高の運用・調査チームを組成。
- SAM社が長年培ってきた日本企業に対する分析手法をベースに、COSMO社・PMA社が有するノウハウとネットワークを融合・結合させ、One-Asia運用チームとして活動。
- 活動拠点を、東京からHong Kongに移す。

新分野の拡大・・・新たな成長ステージへ②

▶ マネジメント体制

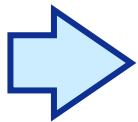
- “One-Asia”戦略を実現するための体制構築(Group Executive BoardとグループCOOの設置)

▶ Marketing

- SPARXブランドをベースにビジネス展開。
- 日本国内での公募投信設定を急ぐ一方、グローバルな機関投資家等へのグループ一体となった営業体制を構築する。

▶ Operation

- IT等の基礎的インフラは共通化する。例えば、オフ・ショアに関する運営は、Hong Kongに集約する。



One-Asiaの運営を早期に軌道に乗せ、収益力の回復を図り、日本・韓国・香港からアジア全域のNetworkを構築する。

2012年3月期のSPARXの目標

- ▶ 連結利益の黒字化・復配を目指す

- ▶ グループ運用資産残高(AUM)の拡大

- ▶ SPARX OneAsia の推進
 - ◆ グループ3社の一体的経営
 - ◆ アジア市場の一体的運用(日本も含む)

SPARXのこれからのテーマ: One Asia 成長論

最良にして最強のアジアのインベストメント・カンパニー The Best and Strongest Asia Investment Company

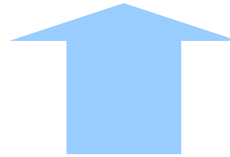
- SPARXグループ(SAM社, COSMO社, PMA社)の完全一体運営へ
- アジアの投資インテリジェンスを世界の投資家に提供
- One Asia 成長論 に基づく投資戦略、商品を提供

SPARX・One Asia 成長論

- 経済的な結びつきがますます強くなるアジア各国
- 世界での存在感を急速に増すアジア経済
- 21世紀はOne Asia の成長が世界の成長をリードする世界

最良にして最強のアジアのインベストメント・カンパニーに向けて

- ▶ アジア全体をみるグループ経営体制の強化
- ▶ スピーディーな行動がとれる組織体制の再構築
- ▶ アジア各国の規制、コンプライアンスなどを踏まえたグループ経営管理体制の強化
- ▶ 各国をまたがる多様なプロジェクトにおけるオーナー・シップ、責任体制の明確化と説明責任の強化



CEOを中心としたフラットかつ多国籍なエグゼクティブ・ボードによる経営

- One Asia 統合経営プラットフォーム
- One Asia 統合オペレーション・プラットフォーム
- One Asia 統合マーケティング・プラットフォーム
- One Asia 統合リサーチ／インベストメント・プラットフォーム

運用調査部門では、東京SAM社、韓国COSMO社、香港PMA社から選抜されたメンバーでアジア調査チームを構成し、アジア各国での企業調査活動を実施

SPARXの復活 – One Asia 成長投資の構築

SPARX Asia ブランドの構築・拡大

アジアでのリサーチ戦略展開

アジアでの投資戦略の実践
(ロング・オンリー、ロング・ショート)

投資仮説 → ボトムアップリサーチによる検証 → 投資戦略 → 顧客開拓

+

環境・グリーンエネルギー分野

SPARX Asia
ブランドの
確立

SPARX One Asia 成長論の構築

新しい企業価値創造投資

SPARX グループ・ブランドの価値拡充・強化



COSMO

參考資料

営業収益内訳・成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳		2010年3月期	2011年3月期	
		通期	通期	前年同期比
残高報酬	(百万円)	6,012	4,869	-19.0%
料率(手数料控除後)	(%)	0.79%	0.67%	-0.12
成功報酬	(百万円)	805	1,873	132.5%
営業投資有価証券売買損益	(百万円)	442	-	-
その他営業収益	(百万円)	631	357	-43.4%
営業収益 合計	(百万円)	7,893	7,101	-10.0%

成功報酬付AUM比率		2010年3月期	2011年3月期	
		通期	通期	前年同期比
スパークス・アセット	残高(億円)	1,203	870	-27.7%
	比率(%)	43.1%	31.8%	-11.4
COSMO社	残高(億円)	2,037	2,556	25.5%
	比率(%)	84.2%	83.8%	-0.4
PMA社	残高(億円)	918	461	-49.8%
	比率(%)	64.9%	49.6%	-15.2
合計	残高(億円)	4,159	3,888	-6.5%
	比率(%)	62.8%	57.9%	-4.9

(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(ネット・ベース) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2011年3月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

グループ運用資産残高の増減(2010年3月末～2011年3月末)

(単位: 億円)

事業主体別	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2011年3月末
スパークス・アセット社	2,783	737	-735	2	-45	2,740
COSMO社	2,419	1,000	-880	119	512	3,051
PMA社	1,415	205	-573	-368	-118	929
当社グループ全体	6,618	1,942	-2,188	-245	348	6,721

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2011年3月末の換算レートによる差額分が含まれている。

(注3) 2011年3月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

各社別運用資産残高の増減(2010年3月末～2011年3月末)

(単位: 億円)

スパークス・アセット社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2011年3月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	759	51	-141	-90	33	702
日本株式集中投資戦略	205	15	-39	-24	-62	118
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	173	0	-135	-135	-37	-
日本株式一般投資戦略	339	48	-107	-58	-22	257
日本株式中小型投資戦略	1,253	238	-239	-1	-21	1,230
環境・グリーンテック投資戦略	-	216	0	216	34	251
その他	51	167	-70	96	31	179
合計	2,783	737	-735	2	-45	2,740

COSMO社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2011年3月末
韓国株式インデックス運用戦略	1,622	555	-249	305	426	2,355
韓国株式一般投資戦略	407	437	-387	50	-13	444
韓国株式ロング・ショート投資戦略	162	0	-97	-96	71	136
韓国株式集中投資戦略	120	6	-37	-31	24	114
その他	104	0	-108	-108	3	-
合計	2,419	1,000	-880	119	512	3,051

PMA社	2010年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2011年3月末
アジア株式投資戦略	386	1	-180	-178	-2	208
アジア・欧州債券投資戦略	582	24	-264	-240	-86	254
アジア・マクロ投資戦略	153	86	-62	23	-52	124
その他	292	92	-65	27	23	343
合計	1,415	205	-573	-368	-118	929

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 「運用・為替差損益等」には、2010年3月末と2011年3月末の換算レートによる差額分が含まれている。

(注3) 2011年3月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

本ページにおける数値は、COSMO社およびPMA社の数値を含んでいない。

(コンポジット計測開始日～2011年3月末)

(年率換算)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	6.64%	2.27%	13.07%	2.96%	4.05%
参考インデックス値	-2.36%	-0.20%	-0.33%	-3.73%	-2.80%
超過リターン	9.00%	2.47%	13.40%	6.69%	6.85%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	1997年5月	2000年1月	1997年8月	2000年6月	1999年7月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	23.19%	18.49%	11.02%	6.77%	21.23%

(注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ (2011年3月末現在)

スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

本ページにおける数値は、COSMO社およびPMA社の数値を含んでいない。

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、PMA社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期
日本株式一般(合同口)	-14.57%	-28.93%	-34.48%	34.27%	-5.74%
日本株式中小型	-11.86%	-28.95%	-25.64%	33.32%	-1.87%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	-3.74%	-14.43%	5.95%	8.77%	8.23%
日本株式L/S(円建、Lev1)	-7.50%	-11.31%	-4.13%	6.03%	4.00%
日本株式集中投資	-18.71%	-10.14%	-25.67%	23.14%	-1.76%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のもです)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、日本において投資運用業、第一種及び第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)